

W14b 「あかり」衛星搭載 近中間赤外カメラのスリットレス分光性能評価 2

左近 樹、尾中 敬(東京大学)、和田武彦、松原英雄、大藪進喜、大坪貴文 ( ISAS/JAXA)、大山陽一 (ASIAA)、金田英宏 (名古屋大学)、相川祐理 (神戸大学)、Jennifer Noble(Univ. of Strathclyde)、  
「あかり」IRC チーム

赤外線天文衛星「あかり」近・中間赤外カメラ (IRC) のスリットレス分光データは、分散方向上に並んだ背景成分の影響を受ける。特に、複雑な背景成分の中に埋もれた天体のスリットレス分光データにおいて、単純に周囲から適切な背景成分を見積もる事が難しい場合も多い。すでに、2008年秋季年会 (W74c) では、中間赤外領域 (MIR-Sチャンネル/SG1 及び SG2) の分光データの性質の詳細な評価の結果とそれを用いた分光背景成分の差し引き手法について報告した。本講演では、近赤外領域 (NIR チャンネル/NP 及び NG) の分光データについて、その性質の詳細な評価結果と、それらを用いて開発した「背景成分が作るスリットレス分光背景パターンを積極的に再現し差し引く手法」について報告する。この手法は、銀河面中の天体など、視野内で天体の密度が高く周囲から適切な分光背景成分を見積もる事が難しい場合や、近傍銀河内の赤外線源などのスリットレス分光データに適応する事ができる。また、特に現在も継続されている AKARI Post-Helium (phase 3) ミッション中において、銀河面、黄道面、近傍銀河中などの高輝度背景光下での近赤外分光観測を行なう際に、有効なデータを取得するための方針についても議論する。